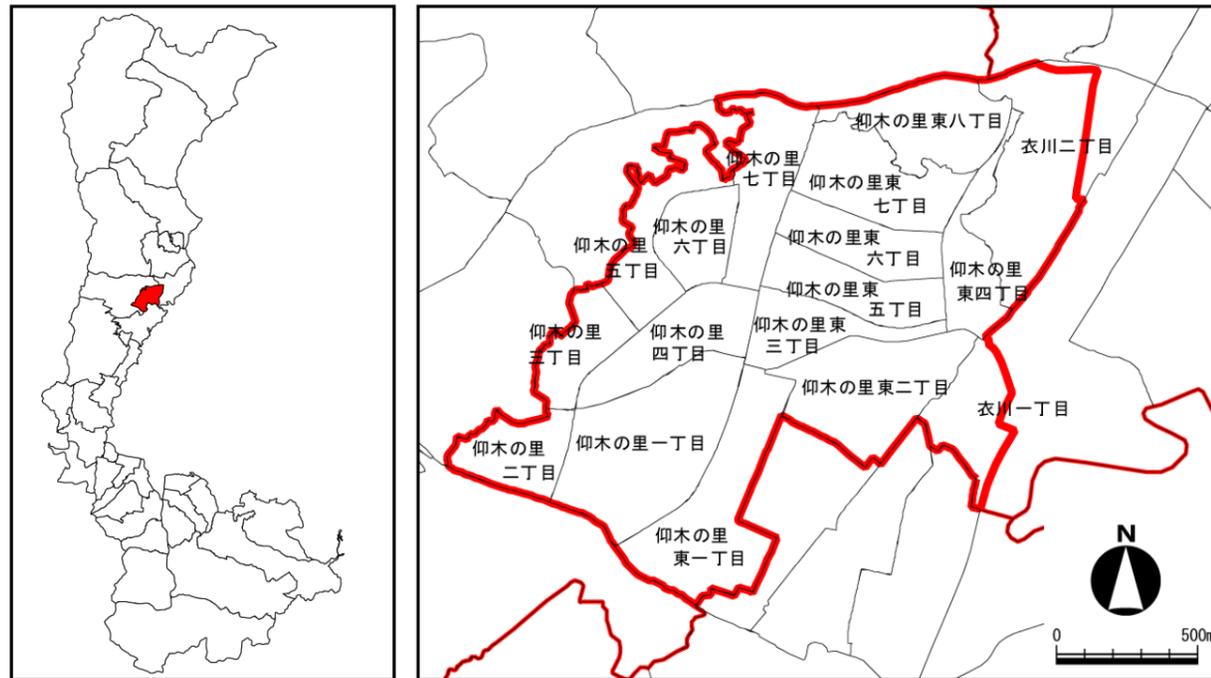


■ 学区の概況



<町丁名>

仰木の里一丁目、仰木の里二丁目、仰木の里三丁目、仰木の里四丁目、仰木の里五丁目、仰木の里六丁目、仰木の里七丁目、衣川一丁目の一部、衣川二丁目の一部、仰木の里東一丁目、仰木の里東二丁目、仰木の里東三丁目、仰木の里東四丁目、仰木の里東五丁目、仰木の里東六丁目、仰木の里東七丁目、仰木の里東八丁目、雄琴三丁目の一部、雄琴北一丁目の一部、雄琴北二丁目の一部

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

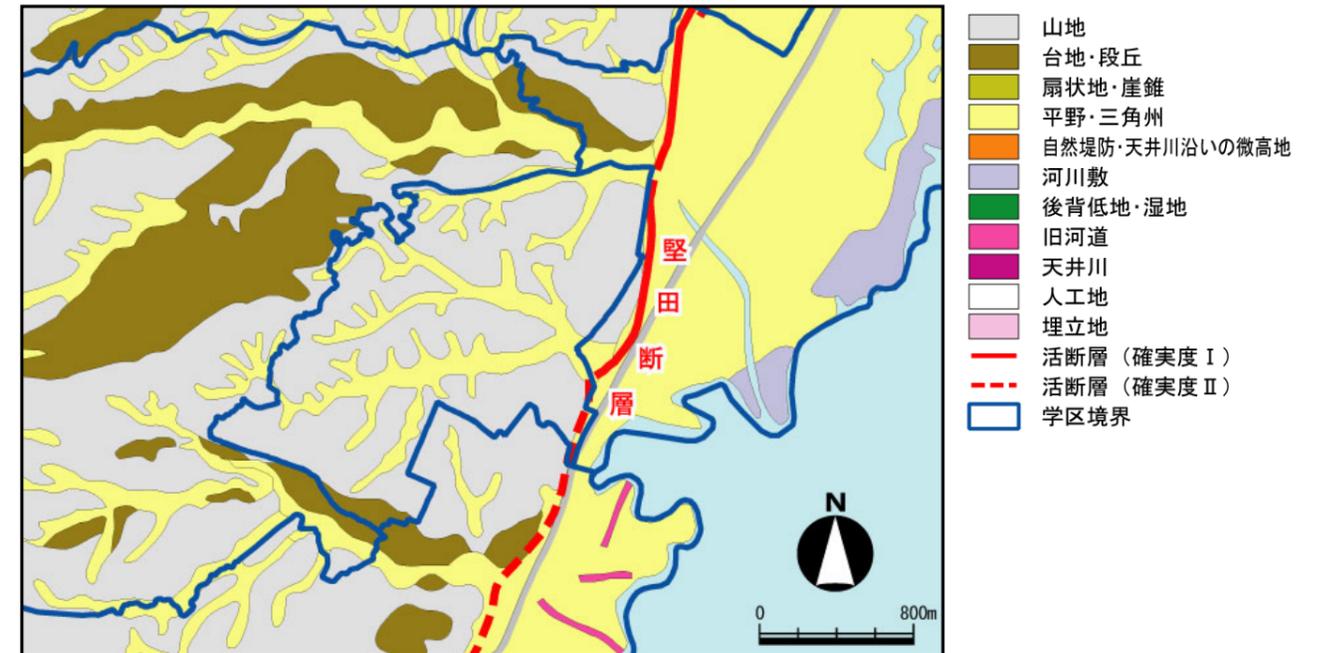
<学区の特徴>

仰木の里学区は仰木地域に開発された住宅地が平成2年4月に仰木学区から独立したもので、新しい建物、景観、文化が築かれている地域である。

学区の北東には5世紀代に築造された西羅古墳群や、飛鳥・白鳳時代に堅田丘陵の南東端部に造営された近江で最古級の寺院跡である衣川廃寺跡も存在する。

近年では開発が進み、住宅が多数建ち並んでいる。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。  
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 仰木の里学区は、堅田丘陵を大規模に宅地造成することで誕生した住宅地である。

<地質の特徴>

- 堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約100万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。これらの地層は、ところによってはかなり傾斜しており、また地質が砂と粘土の互層であるため、地層が流れ盤になっている側では、粘土層がすべり面となって地すべりが発生する。雄琴・仰木地域を中心とする棚田の光景は、こうした地形地質の条件を人間がうまく利用して生まれたものである。

<活断層の特徴>

- この地域の東部では堅田断層の南半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約13kmの活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
衣川一丁目	61.0	78.0	77.5	27.7
衣川二丁目	53.1	91.1	25.7	12.7
仰木の里一丁目	49.5	80.1	67.1	0.0
仰木の里二丁目	47.0	72.0	49.6	0.0
仰木の里三丁目	38.3	73.8	62.5	0.0
仰木の里四丁目	49.9	79.7	61.0	0.0
仰木の里五丁目	44.2	80.8	54.7	0.0
仰木の里六丁目	49.3	50.8	61.2	0.0
仰木の里七丁目	46.0	69.8	62.1	0.0
仰木の里東一丁目	44.7	81.5	57.6	1.1
仰木の里東二丁目	50.7	90.3	37.6	0.0
仰木の里東三丁目	47.3	83.4	64.2	0.0
仰木の里東四丁目	-	-	17.9	0.0
仰木の里東五丁目	48.1	66.5	57.4	0.0
仰木の里東六丁目	44.8	74.3	60.5	0.0
仰木の里東七丁目	47.5	68.7	62.5	0.0
仰木の里東八丁目	50.1	61.3	82.3	9.7
雄琴三丁目	49.2	73.6	68.4	28.6
雄琴北一丁目	44.8	86.1	48.0	2.5
雄琴北二丁目	49.8	72.7	48.6	0.4
学区平均	49.5	79.0	58.1	8.2
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は49.5戸/haで市平均(全学区の平均)の59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は79.0%で市平均の93.9%より低い。
- 木造率は、仰木の里東八丁目(82.3%)が最も高く、仰木の里東四丁目(17.9%)が最も低い。学区平均は58.1%で市平均72.7%を下回り、市内で3番目に低い。
- 旧耐震木造建物割合は、雄琴三丁目(28.6%)が最も高い。仰木の里一丁目～七丁目、仰木の里東二丁目～七丁目の旧耐震木造建物割合は0.0%で、学区平均は8.2%と市平均40.3%を大きく下回り、市内で2番目に低い。
- 仰木の里学区の建物状況は、新しい耐震基準を満たす建物が大部分を占めるという特徴がある。

■ 人口の状況

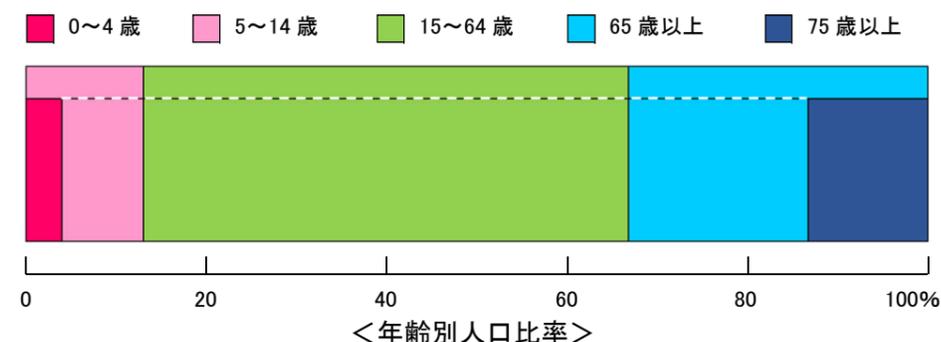
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	13,226	人		-	1
年齢別 (0~4歳)	414	人	学区人口に対する割合	3.1	1
年齢別 (5~14歳)	1,353	人	学区人口に対する割合	10.2	1
年齢別 (15~64歳)	7,960	人	学区人口に対する割合	60.2	1
年齢別 (65歳以上)	3,499	人	学区人口に対する割合	26.5	1
年齢別 (75歳以上)	1,478	人	学区人口に対する割合	11.2	1
世帯数	5,320	世帯		-	2
1世帯当たり人口	2.5	人/世帯		-	2
要介護認定者	420	人	学区人口に対する割合	9.2	3
身体障害者 (要配慮者)	121	人	学区人口に対する割合	0.9	4
知的障害者 (要配慮者)	22	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	88	人	学区人口に対する割合	0.7	5

(注) 1世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30現在)、4: 大津市データ (R4.3.31現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 仰木の里一丁目～七丁目、仰木の里東三丁目～七丁目(人口集中地区(DID地区))である。
- 人口は学区全域にわたって分布している。
- 高齢者(65歳以上)は3499人、乳幼児(0~4歳)は414人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ26.5%、3.1%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均(27.2%)より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均(3.9%)より低い。
- 要介護認定者は420人(9.2%)、身体障害者(要配慮者)は121人(0.9%)、知的障害者(要配慮者)は22人(0.2%)である。
- 外国人居住者は88人(0.7%)である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	11 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	9 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	22 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	1 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	0 m <sup>2</sup>	6
(0.5m~1.0m)	53 m <sup>2</sup>	6
(1.0m~2.0m)	224 m <sup>2</sup>	6
(2.0m~)	0 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	0 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 学区の南東部は地すべり防止区域に指定されており、北部には急傾斜地崩壊危険箇所が点在する。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 学区の東端を堅田断層が南北に通過する。
- 豪雨などの場合には、地すべり防止区域や急傾斜地崩壊危険箇所部分に警戒が必要である。一方、地震時には、山地部で崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性があることにも留意する。
- 地震発生においては、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	仰木の里小学校グラウンド	○	○	○		仰木の里四丁目 4-1
	仰木の里東小学校グラウンド	○	○	○		仰木の里東六丁目 1-1
	仰木の里幼稚園グラウンド	○	○	○		仰木の里三丁目 10-1
	仰木の里東幼稚園グラウンド	○	○	○		仰木の里東六丁目 4-1
	仰木中学校グラウンド	○	○	○		仰木の里五丁目 1-1
	仰木東公園	○	○	○		仰木の里東二丁目 15
	仰木西公園・北大津高校グラウンド	○	○	○	○	仰木の里一丁目 28 他
	せんだん保育園 駐車場	○	○	○		仰木の里東二丁目 2-5
	認定こども園はぐくみの家 仰木星の子 駐車場	○	○	○		仰木の里一丁目 28-1
	指定緊急避難場所 兼 指定避難所	仰木の里市センター	○	○	○	
仰木の里小学校体育館		○	○	○		仰木の里四丁目 4-1
仰木の里東小学校体育館		○	○	○		仰木の里東六丁目 1-1
仰木の里幼稚園		○	○	○		仰木の里三丁目 10-1
仰木の里東幼稚園		○	○	○		仰木の里東六丁目 4-1
仰木中学校体育館		○	○	○		仰木の里五丁目 1-1
滋賀県立北大津高校体育館		○	○	○		仰木の里一丁目 23-1
指定避難所	仰木中学校武道場			—		仰木の里五丁目 1-1
	せんだん保育園			—		仰木の里東二丁目 2-5
	認定こども園はぐくみの家 仰木星の子			—		仰木の里一丁目 28-1
	(福) 仰木の里 児童クラブ			—		仰木の里四丁目 4-1

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
仰木の里市民センター	仰木の里七丁目 1-25	573-7135

<警察 110>

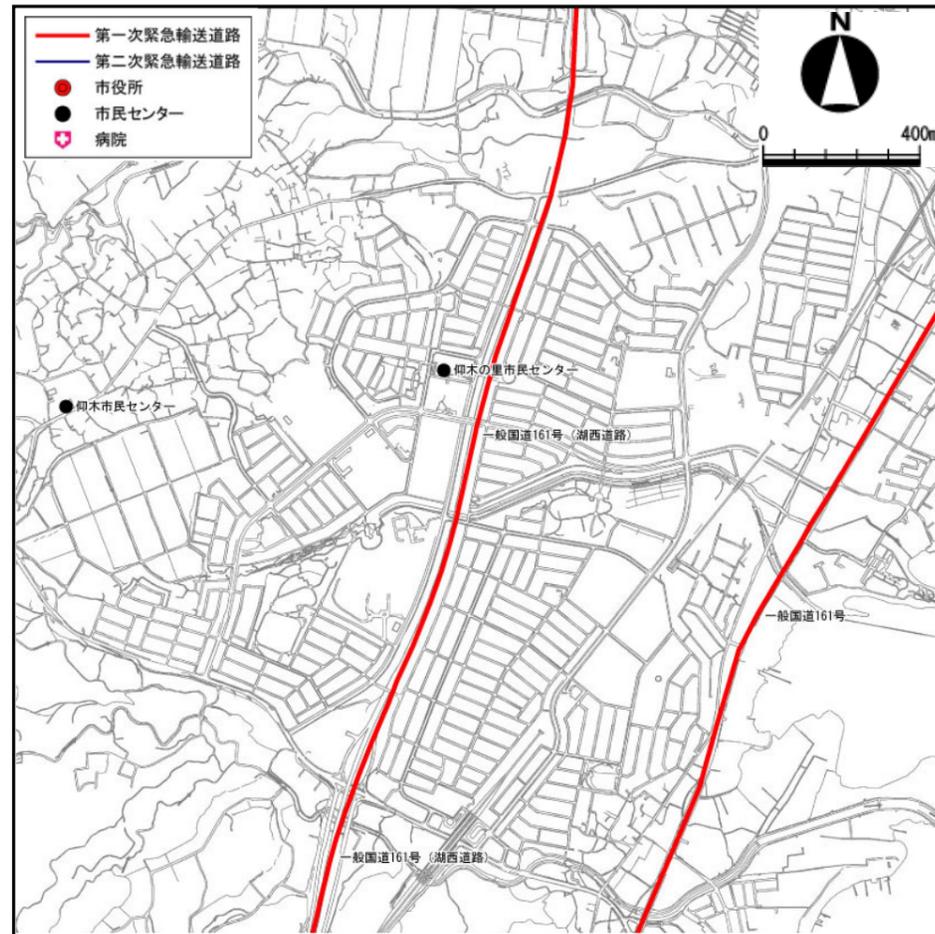
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234
仰木交番	仰木の里三丁目 19-16	573-1464

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
仰木の里分団	仰木の里七丁目 1-26	573-8006



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,552	12,514	1,081	849	1,505	30	18	19	143	90	90	7	5	5
ケース2	3,552	12,514	1,166	855	1,594	36	21	23	132	83	84	7	4	4
ケース3	3,552	12,514	1,027	838	1,446	28	17	18	160	100	102	8	5	5

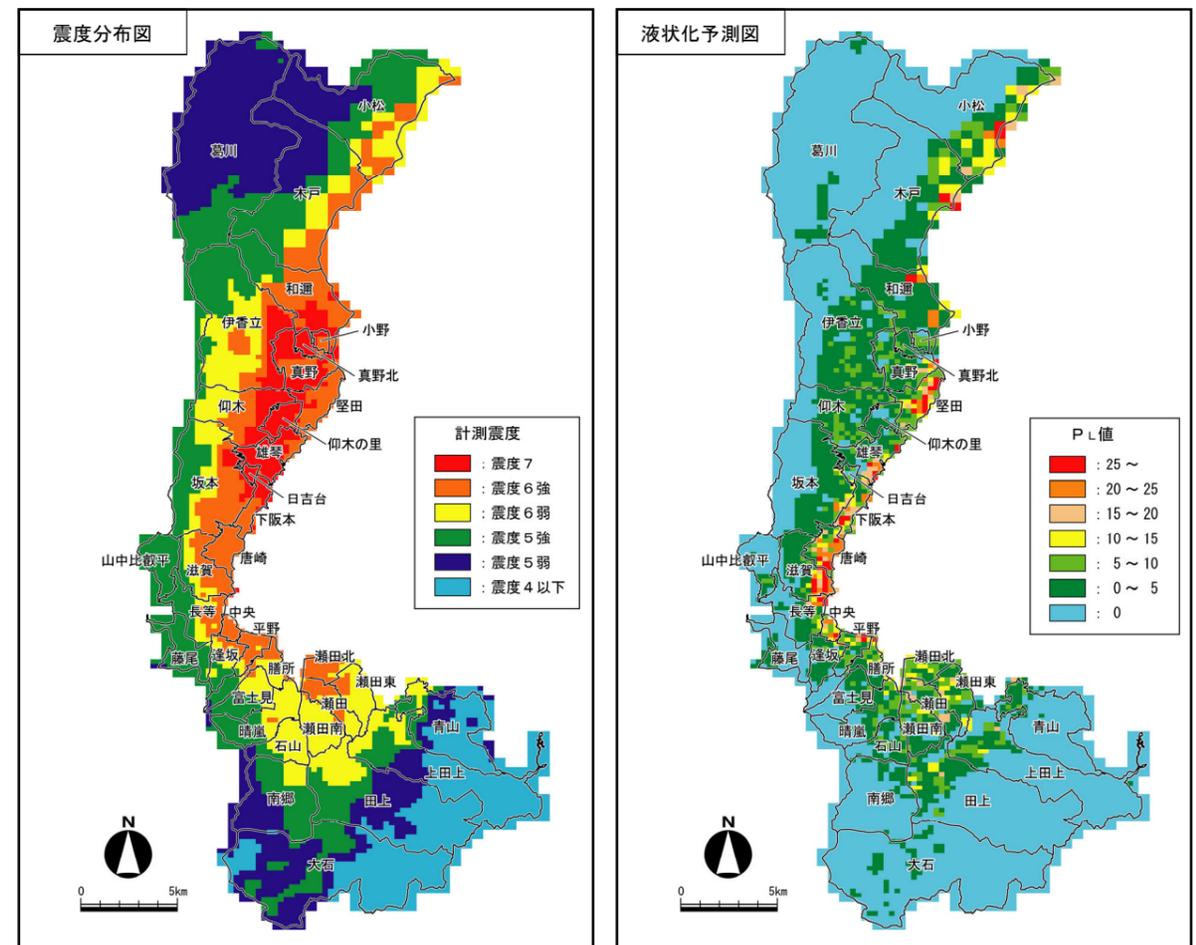
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	2	2	1,953
ケース2	1	2	3	2,045
ケース3	1	2	2	1,902

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

( PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生  
 PL ≥ 20 激しい液状化 )

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

